

令和8年度 学校経営計画表

1 学校の現況

学校番号	77	学校名	結城第二高等学校				課程	定時制		学校長名	堀川 洋					
教頭名	野村 淳吾			小島 俊晴					事務(室)長名	北川 健一						
教職員数	教諭	31	養護教諭	2	常勤講師	3	非常勤講師	21	実習助手ALT	3	事務職員	3	技術職員等	8	計	75
生徒数	小学科	1年次		2年次		3年次		4年次		合計		合計	クラス数			
		男	女	男	女	男	女	男	女	男	女					
	普通(午前)科	18	22	17	18	12	15	2	3	49	58	107	5クラス			
	普通(午後)科	26	14	10	24	16	14	6	4	58	56	114	5クラス			
普通(夜間)科	4	2	2	1	4	1	7	1	17	5	22	4クラス				

2 目指す学校像

これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなが支援」を基調とした学校像を目指す。

- 1 個に応じた指導をとおし、向上心を高め、自己実現を目指す学校
- 2 自己肯定感を培い、自他を理解・受容し、社会性をはぐくめる学校
- 3 地域社会と連携し、いつでもだれでも学べる、地域に開かれた学校
- 4 本校に携わるすべての人がWell-Beingであるために、自他を尊重し、互いの長所を生かして物事に取り組める学校

3 三つの方針(スクール・ポリシー)

「育成を目指す資質・能力に関する方針」 (グラデュエーションポリシー)	これまでの学校生活で個性・能力を十分に発揮できなかった生徒たちに対して、「人とつながるオンリーワン、みんなが資源、みんなが支援」を基調とした教育活動により次のような生徒の育成を目指します。 1 自他を理解・受容できる生徒 2 社会性が身についた生徒 3 何事にも主体的・協同的に取り組める生徒
「教育課程の編成及び実施に関する方針」 (カリキュラム・ポリシー)	多様化する生徒に対応した学習の形態を準備し、そのニーズに応えるとともに、生徒一人ひとりの自己理解、自己実現を促すために次のような教育活動を行います。 1 多彩な選択科目と、少人数や習熟度による授業の実践 2 心のサポートの充実と思いやりの心の育成 3 社会性の醸成と地域社会に貢献する姿勢の育成
「入学者の受け入れに関する方針」 (アドミッションポリシー)	お互いを大切にしながら学び合い、協力し合う学校を目指して、次のような生徒を募集します。 1 向上心を持って取り組もうとする生徒 2 自他を尊重しようとする生徒

4 現状分析と課題(数量的な分析を含む。)

項目	現状分析	課題
学習指導	<ul style="list-style-type: none"> ・真面目な態度で学習に取り組んでいる。 ・生徒間の学力の差が大きく対応が難しい。 ・自ら主体的に取り組むさらなる積極性が必要である。 	<ul style="list-style-type: none"> ・主体的に学習に取り組める環境整備と、個に応じた支援・指導の充実。 ・ICTを活用した教材の共有化及び授業実践のさらなる充実。
生徒支援	<ul style="list-style-type: none"> ・自尊感情とコミュニケーション能力が必要である。 ・規範意識や自律的生活習慣が確立していない。 ・様々な安全教育や環境整備を維持し、定着させている。 ・学習サポーターやキャンパスエイド等を利用して、生徒の支援を行っている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己肯定感からの積極性の醸成。 ・プロアクティブな支援の実践。 ・外部機関や地域との連携を通じた生徒の人間性向上。
進路指導	<ul style="list-style-type: none"> ・自分の適性に合った進路希望を持つことが難しい生徒が多い。 ・多様な進路希望を持つ生徒が多い。 ・学校全体の連携強化を図る必要がある。 ・卒業時に進路が未決定の生徒が2割程度いる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・自己理解を深め、長期的視野に立った進路実現。 ・年次と進路が連携し、外部機関を活用した進路ガイダンス等の充実。 ・インターンシップ等による企業との連携強化。
特別活動	<ul style="list-style-type: none"> ・三部制のため、工夫して効率的な運営に努めている。 ・自らの学習状況やキャリア形成を見通したり振り返ったりすることによる、自身の変容や成長を自己評価できるような場面が少ない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・学校行事等とおしたキャリア形成。 ・キャリア形成年間計画へのキャリアパスポート等の位置づけを明確化。
教育相談活動	<ul style="list-style-type: none"> ・中学時代に不登校などの欠席が多い生徒が半数以上を占めている。 ・友人関係や家族関係の問題を多く抱えている生徒が多い。 ・キャンパスエイド制度を利用する生徒が固定化しており、広く周知する必要性を感じる。 	<ul style="list-style-type: none"> ・教職員の連携を強化及び生徒理解の一層の促進。 ・教職員向けの研修会の実施、校外研修への積極的参加等による教育相談技術のスキルアップ。 ・生徒が利用しやすい教育相談体制のさらなる工夫。
働き方改革	<ul style="list-style-type: none"> ・外部人材の参画・確保や研修等の実施について、推進している。 ・部活動外部指導者制度の活用を継続している。 ・時間外勤務時間が45時間をこえる教職員はいない。 	<ul style="list-style-type: none"> ・SC、SSW、SSS、部活動外部指導者等の活用の充実。 ・同僚性の構築と業務の平準化の推進。 ・業務の軽減を目指したポータルサイトの更なる有効活用。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ・ロイノート等を利用することにより、生徒への配慮を重要視している。 ・電子黒板等のICTを利用した授業が平常化している。 ・探究の時間での生徒発表など、生徒の成長を促す時間づくりに努めている。 	<ul style="list-style-type: none"> ・授業におけるICT機器の更なる利用促進。 ・授業のユニバーサルデザイン化の徹底と分かる授業の更なる実践。 ・一人ひとりを大切に授業づくり。 ・ルーブリックを活用した「指導と評価の一体化」の検討。

5 中期目標

<ol style="list-style-type: none"> 1 組織的にキャリア教育を推進し、生徒の自己実現を図る。 2 教育相談、個に応じた支援を軸に規範意識の高揚、自律的生活習慣の向上に努める。 3 地域からの信頼・支援、教育力を得るための取組を推進する。 4 教師と生徒との信頼関係により、安心・安全に通える学校づくりを推進するため、学習環境の維持改善や学校行事、ボランティア活動などの特別活動の推進、教師の研修機会の設定を積極的に行う。 5 教師のこれまでの働き方を見直し、教師自身が授業を磨き、日々の生活の質や教職人生を豊かにすることで、教師自身の人間性や創造性を高め、生徒たちに対して効果的な教育活動を行えるようにする。

6 本年度の重点目標

重点項目	重点目標
規範意識の醸成、コミュニケーション力の向上を図り、自律的生活習慣の確立及び社会貢献できる豊かな人間性の育成	<ul style="list-style-type: none"> ① 社会性の向上を目指した、各種講習会や授業、学校外学修等を企画・実践する。 ② コミュニケーション力の向上や豊かな心育成とともに、規範意識を培うための取組を推進する。
一人ひとりの教育的ニーズに応じた支援の充実	<ul style="list-style-type: none"> ③ 特別な教育的支援を必要とする生徒への理解と指導力の向上を図る。 ④ 問題行動の未然防止に努める。 ⑤ 声掛け、面談、見守り等をとおして自己肯定感を高める。 ⑥ キャリアパスポート等を活用しながら一人ひとりの教育的ニーズに応じた指導・支援を実践する。
「働き方改革」と学校運営体制の充実	<ul style="list-style-type: none"> ⑦ 時差出勤を利用し、ワークライフバランスを意識した働き方を推進していく。 ⑧ 教科内・教科間における教材の共有や分掌間の情報共有を密にして、業務の省力化を図る。スクラップ・アンド・ビルドの考え方で慣習にとらわれず、業務を精選する。 ⑨ 「チーム学校」の実現に向け、SC、SSW、SSS、部活動外部指導者等の活用と連携、キャンパスエイド、学習サポーターの活用を推進する。 ⑩ ポータルサイトの利用促進により、更なる業務軽減を目指す。
授業改善	<ul style="list-style-type: none"> ⑪ ルーブリックを活用した「指導と評価の一体化」を推進し目標を明確にすることで、自己の成長を認識できるようにする。 ⑫ 視覚的に理解しやすい授業と、対話を取り入れた授業を実践する。 ⑬ 授業のユニバーサルデザイン化を徹底する。 ⑭ 「生徒による授業評価」の授業満足度において肯定的な意見が85%以上(3.4以上)になることを目指す。